1. 日 照 時 間
2. 平 均 相 対 湿 度

1. 日照時間

日照時間とは、太陽の光が雲や霧にさえぎられることなしに地上を照らした時間で、正確にいうとその時間は地方真太陽時によって表わされる。

年間の日照時間は、太平洋側の地域で長く、日本海側の地域で短かい。季節別にみると冬期の日本海側では雪雲に覆われていちじるしく短かく、太平洋側では連日晴天にめぐまれて日照時間が長い。夏期は冬期ほどの地域的な差はない。

800 万分の 1 日照時間は気象官署約 150 地点の値から作成した。

可照時間は太陽の中心が地平線から出て地平線に没するまでの時間である。この値は、太陽が山などの障害物によって隠れる時間を考慮せず、その地点の経緯度と高度によって算出する。日照率は日照時間を可照時間で割った値である。この値は、太陽が雲などによってさえぎられない割合で、その地点の概略の平均雲量に換算することもできる。

日射量は地表が太陽あるいは天空から受ける熱量である。日射量には直達日射量と全天日射量がある。前者は太陽から直接地表に到達する日射量で、その測定は難かしい。後者は上空のあらゆる方向からの日射量である。その単位は一般に 1 日あたり 1 cm^2 の地表面に受けるカロリー量で表わす。全天日射量の図は、気象官署のうち日射量の統計のある約 65 地点の 1961～1970 年の平均値により作図した。

〔資料〕
1．気象庁，日本気候表　その 2　地点別月別平年値（1941～1970），1972
2．気象庁，日本気候図　第 2 集，1972

2. 平均相対湿度

湿度とは空気中の水蒸気量の多少を表したものである。絶対湿度は単位体積中にふくまれる水蒸気の質量である。絶対湿度の原理は簡単であるがその測定は困難であり、気温が変ると単位体積中に含むことのできる水蒸気量も変るので人体に感じる大気の湿りぐあいを示す目安としてあまり適当でない。相対湿度（単に湿度ということもある）は飽和水蒸気圧にたいする水蒸気圧の比を百分率で表わしたものである。湿度は一日中変化するので、気象庁は 1 日 4 回（3、9、15、21 時）の定時観測の平均値をその日の湿度としている。

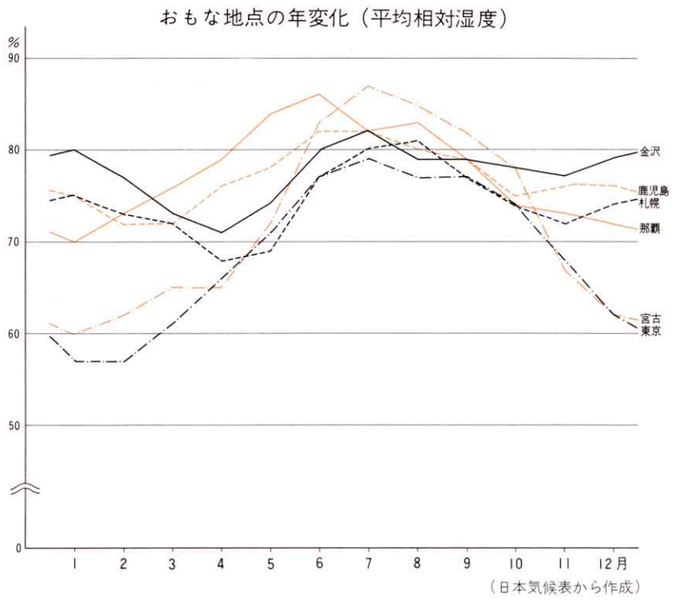
わが国は、島国のため海上から湿った空気が流れこみ一般に多湿で、とくに夏期と前線の停滞する梅雨や秋霖の時期などにいちじるしく多湿となる。しかし冬の太平洋側は乾燥状態が続き湿度は低い。

1200 万分の 1 平均相対湿度は気象官署約 150 地点の平年値から作成した。

大気の圧力のうち水蒸気による圧力は水蒸気圧（蒸気圧ということもある）と呼ばれミリバール（mb）で表わす。蒸気圧は大気中の水蒸気量に関係して増減し、絶対湿度の単位を変えたものと考えてよい。

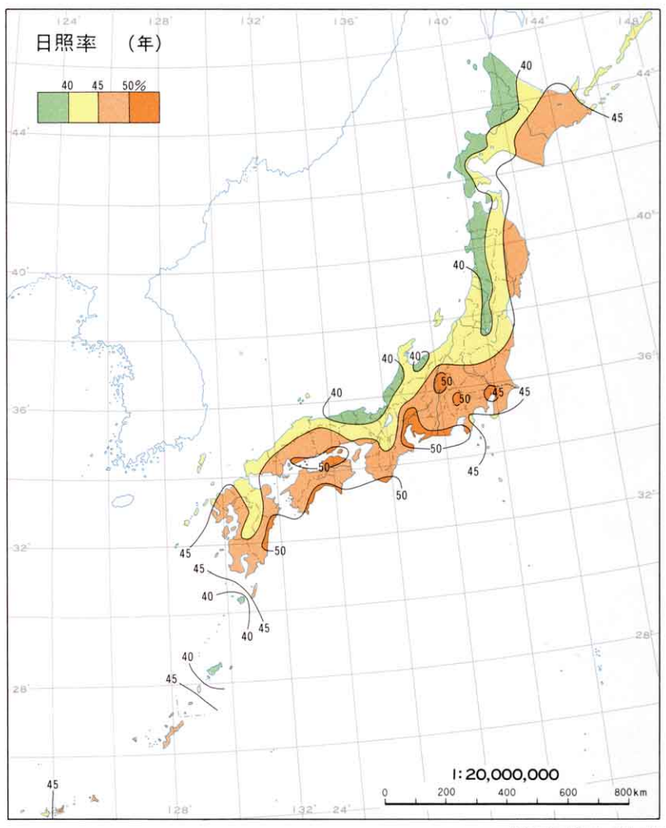
平均蒸気圧の図は気象官署のうち蒸気圧の統計のある約 90 地点の平年値から作成した。

おもな地点の年変化（平均相対湿度）

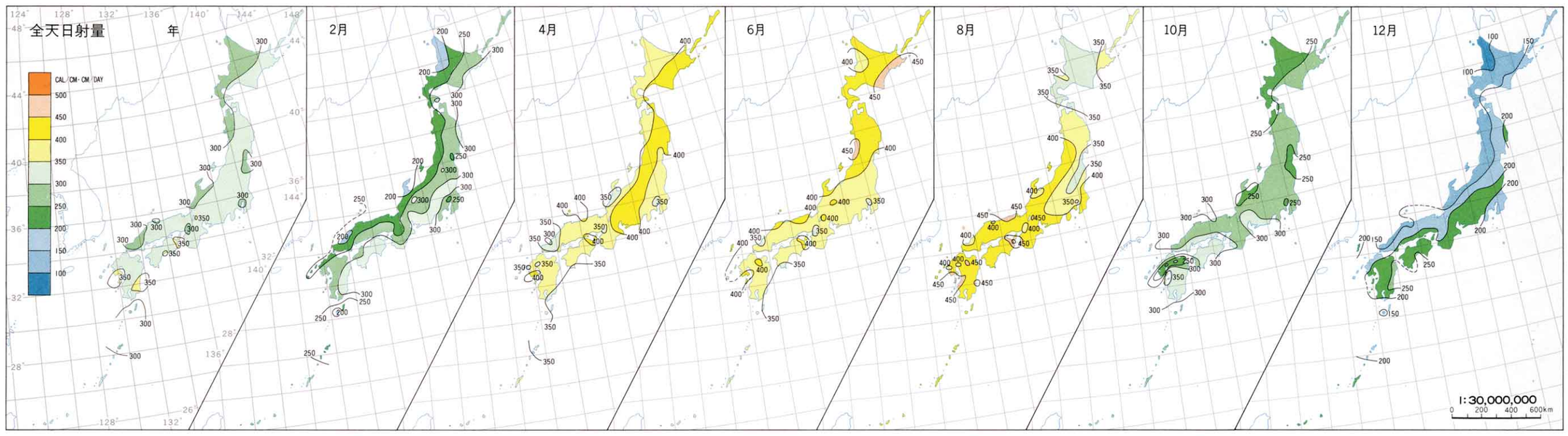


（日本気候表から作成）

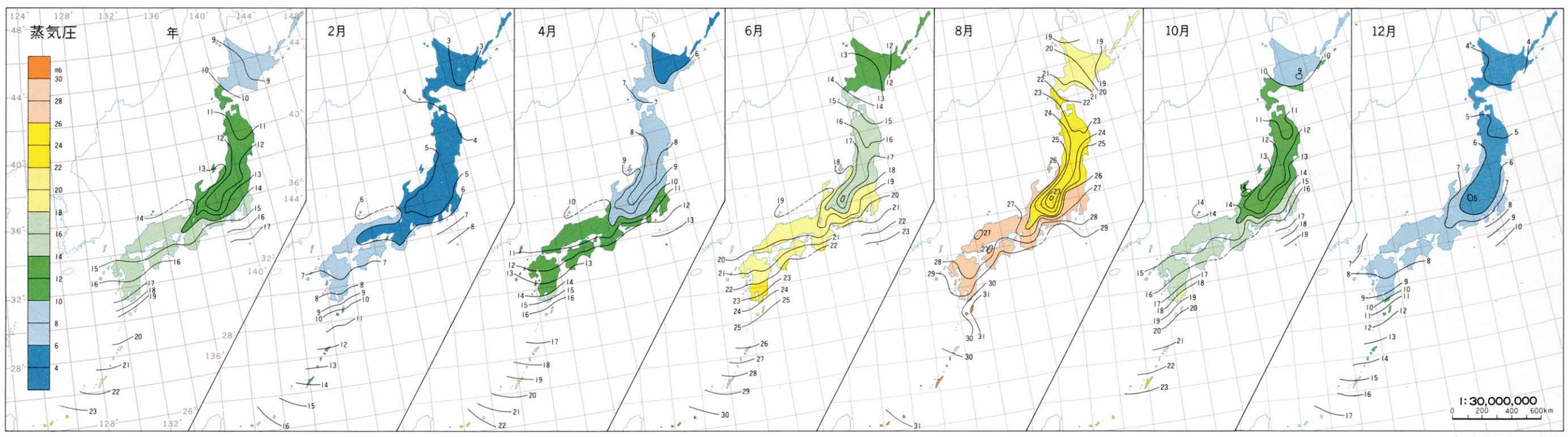
〔資料〕
1．気象庁，日本気候表　その 2　地点別月別平年値（1941～1970），1972
2．気象庁，日本気候図　第 1 集，1971
3．気象庁，日本気候図　第 2 集，1972



（日本気候表から作成）

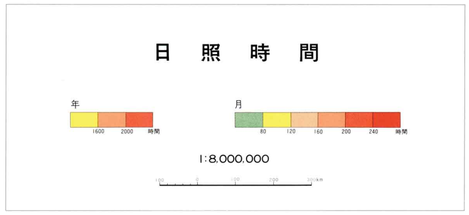


（日本気候表から作成）

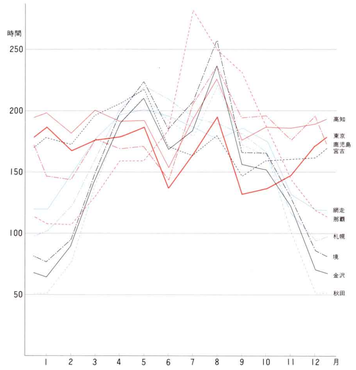


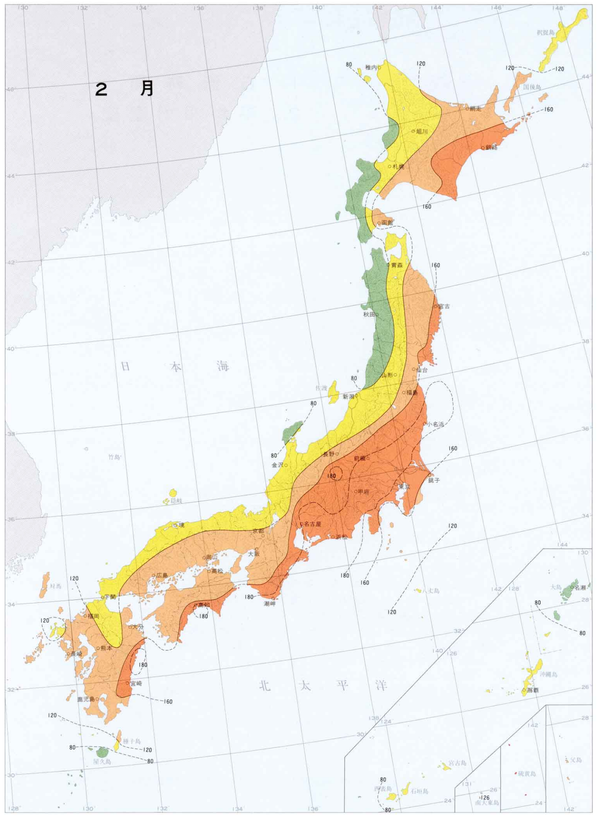
（日本気候表から作成）

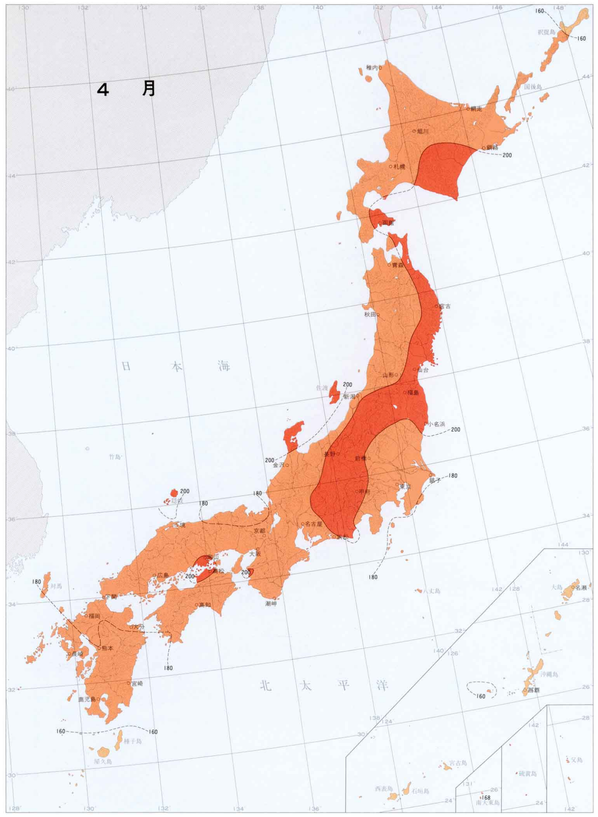
15.1

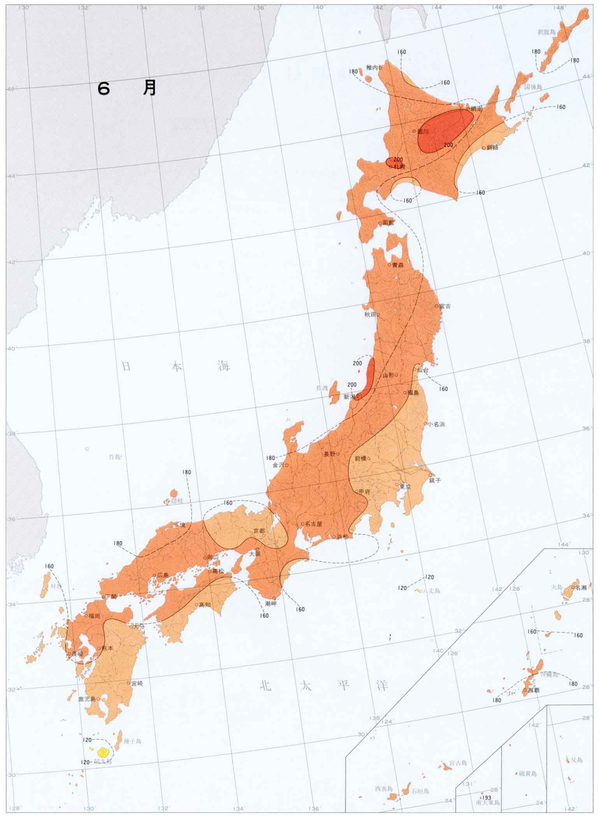


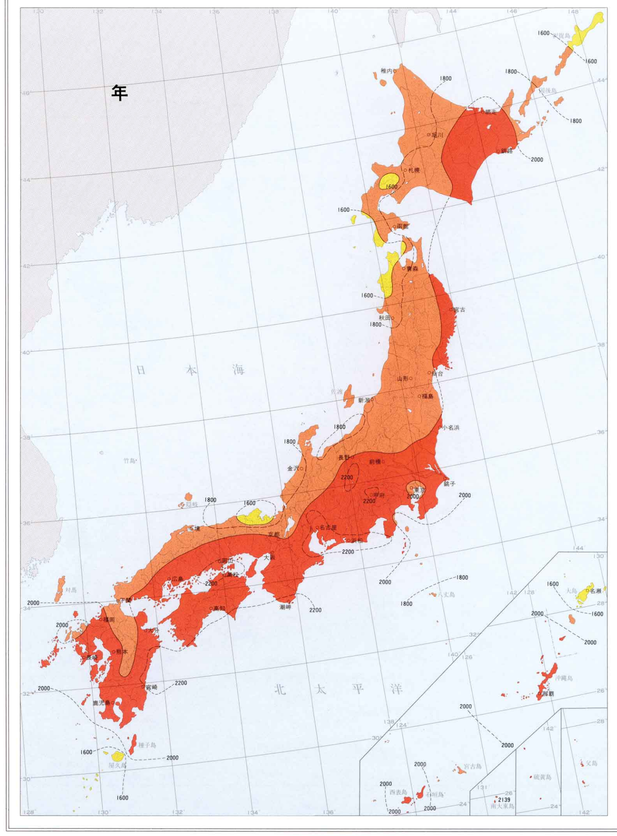
おもな地点の年変化

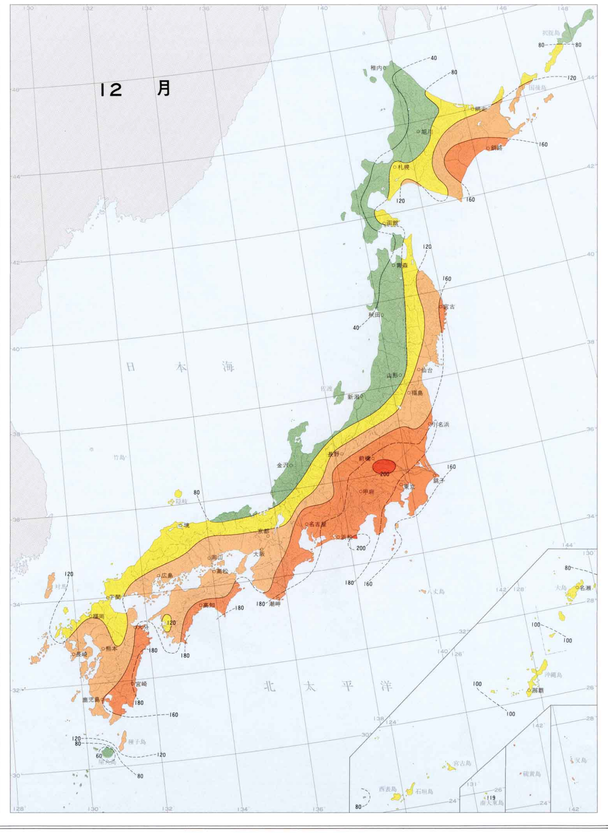


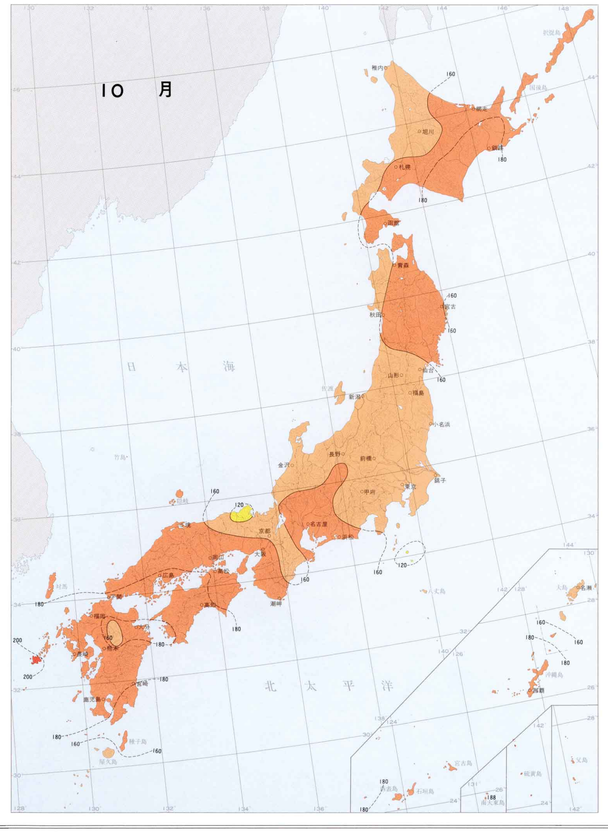




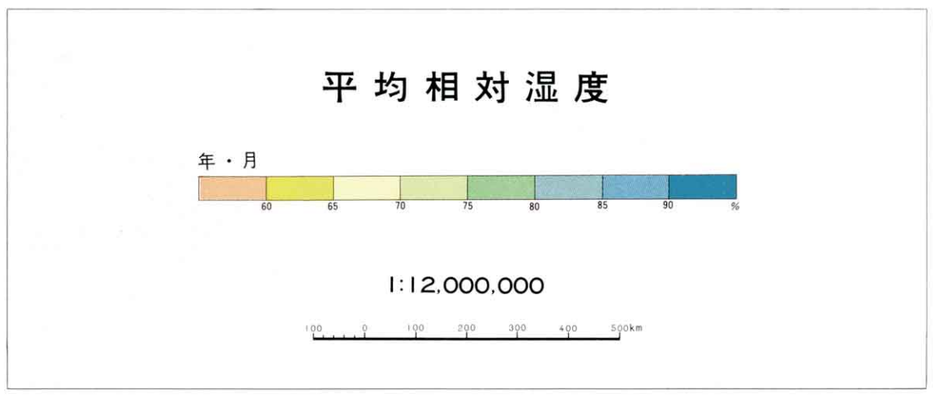


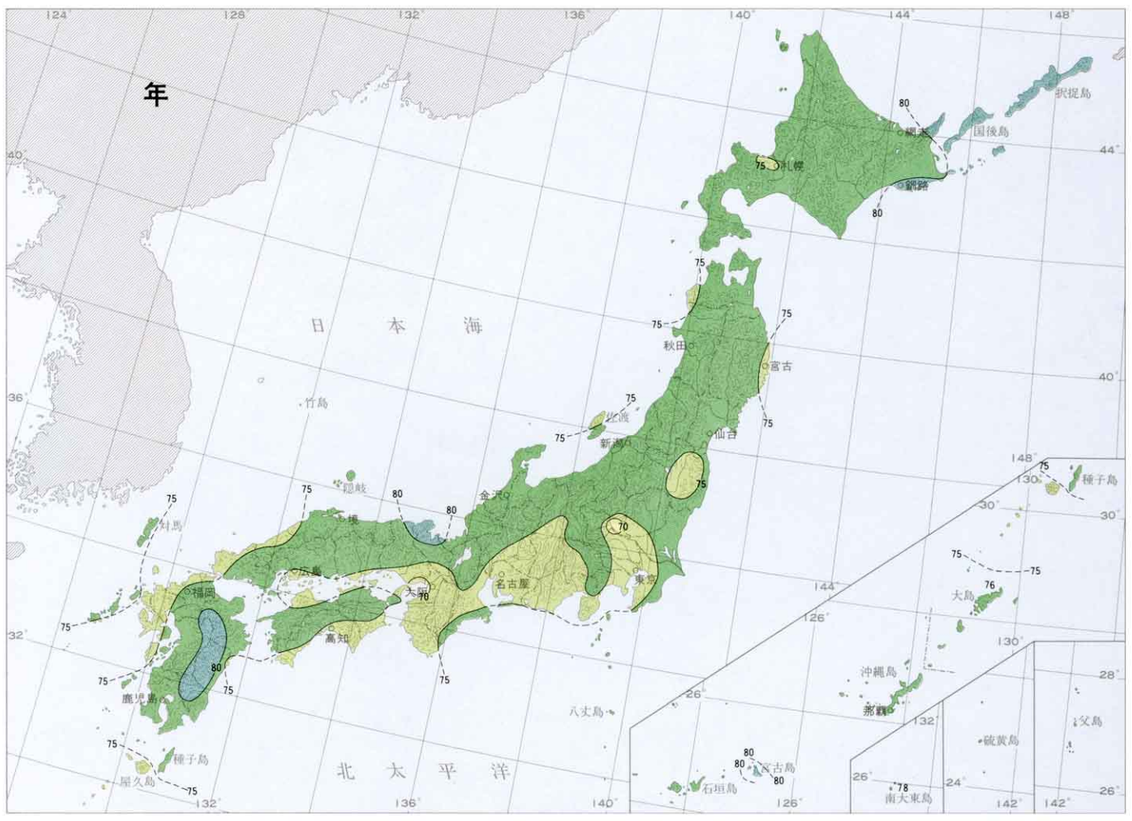


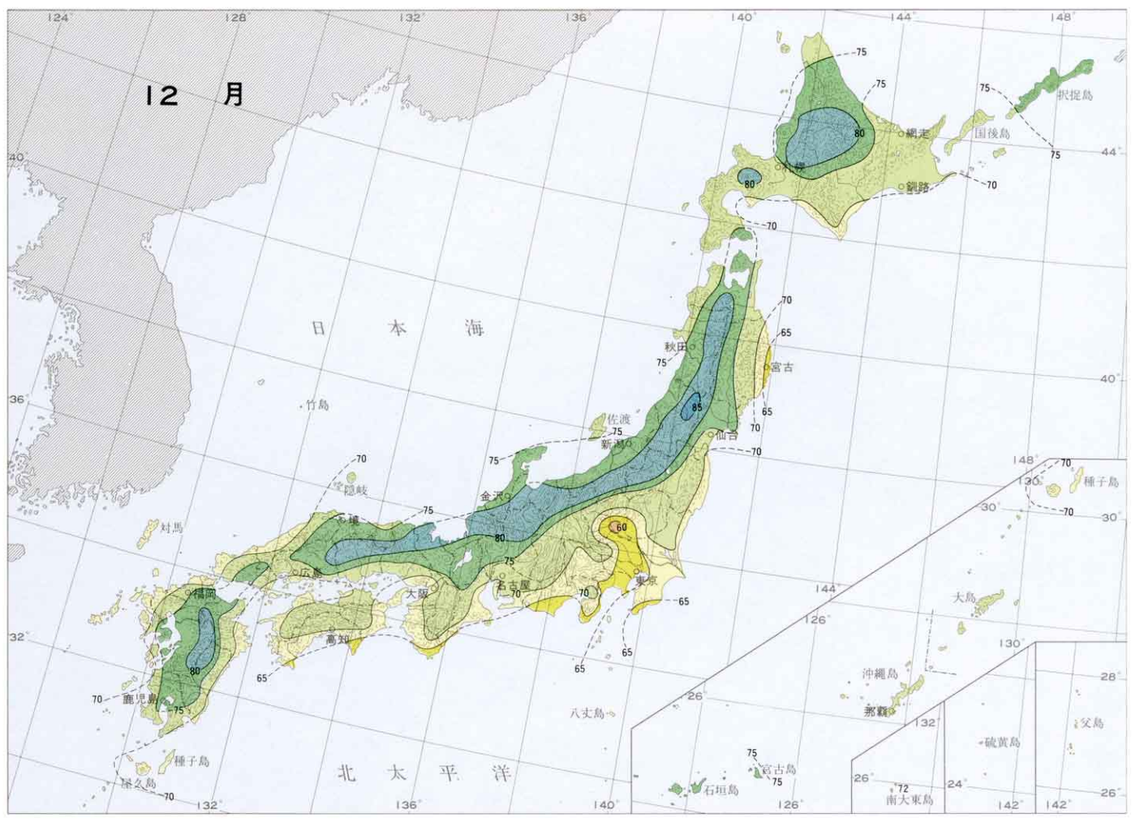


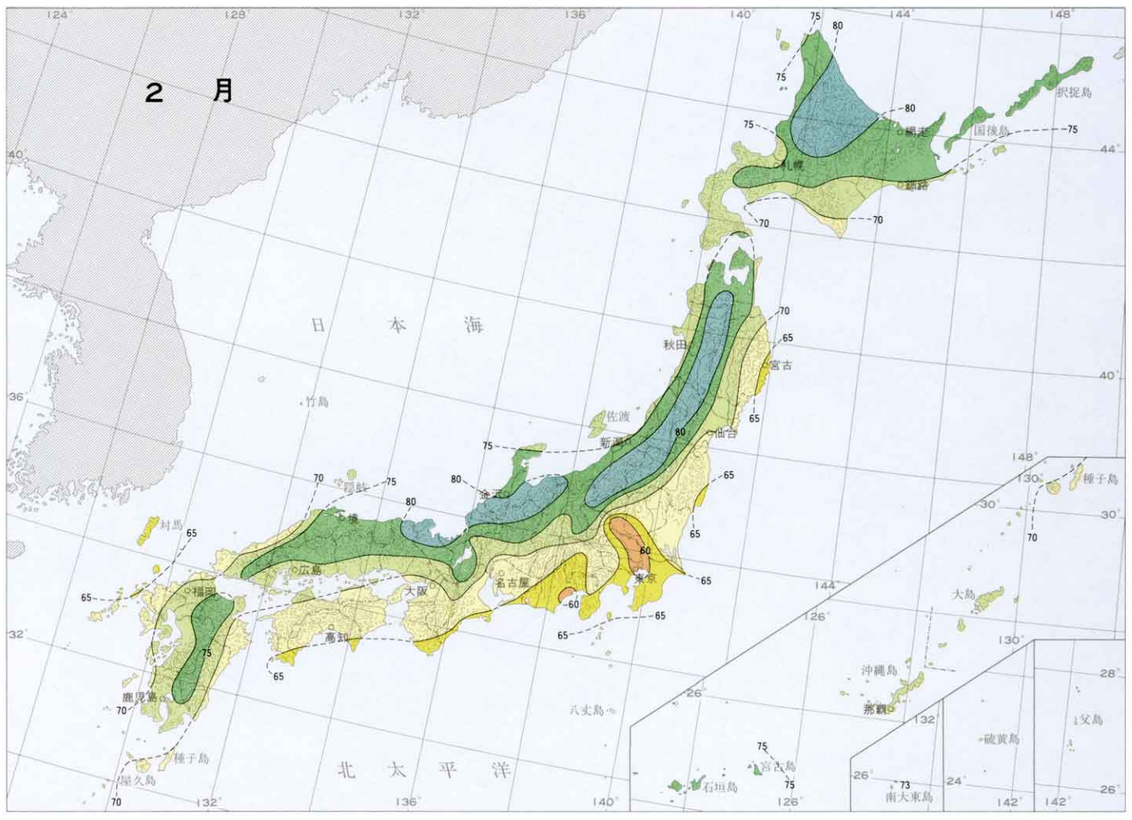


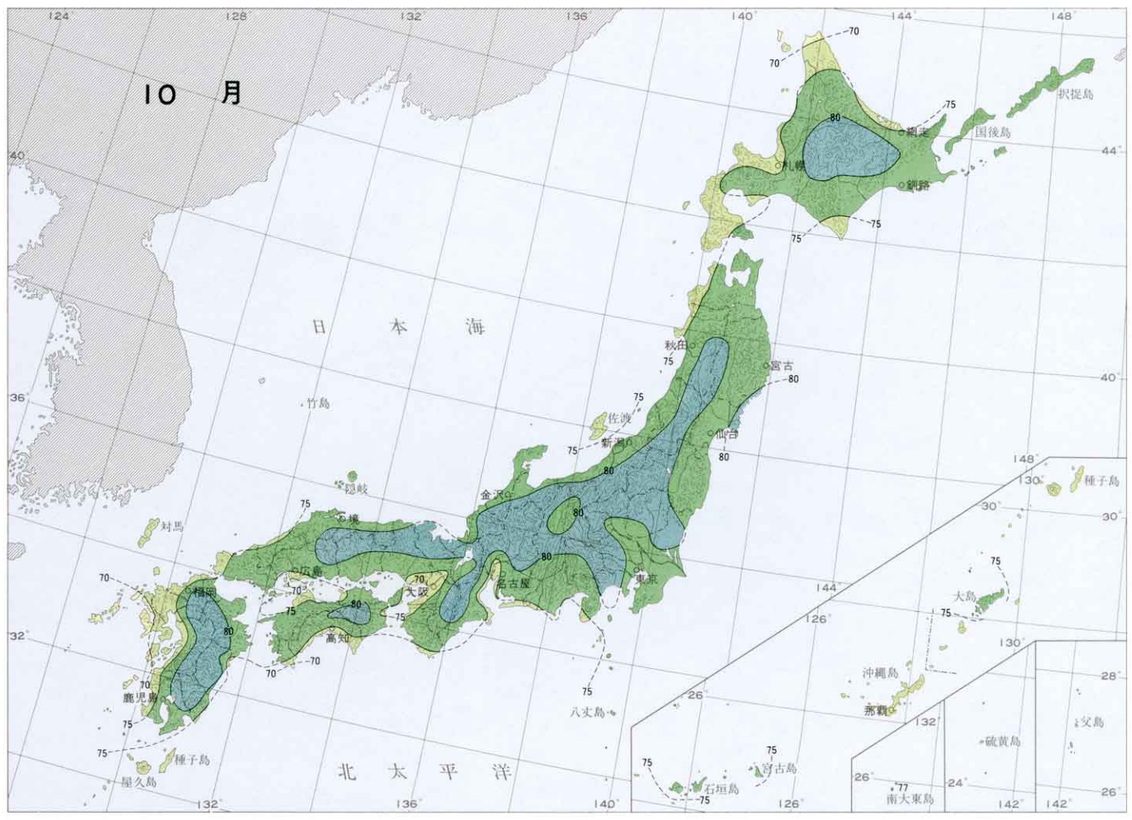
15.2

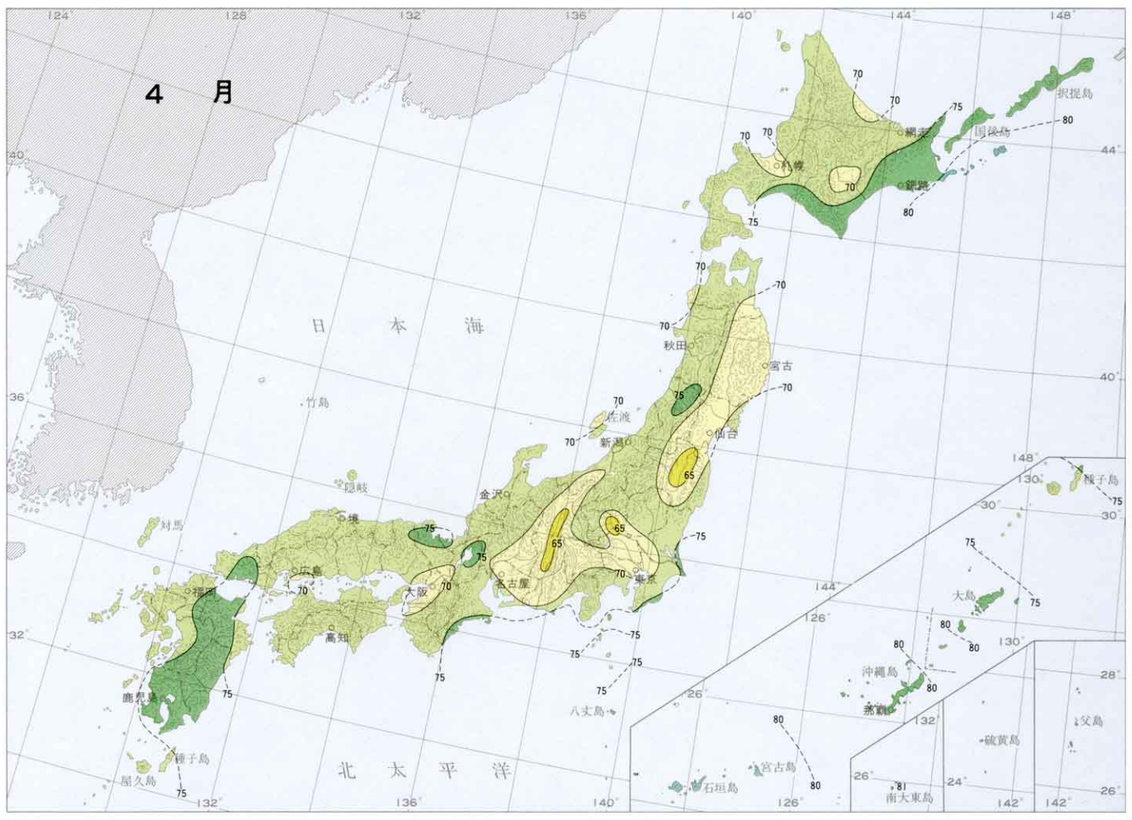

平均相対湿度
年・月
60
65
70
75
80
85
90
%
1:12,000,000
100 0 100 200 300 400 500km

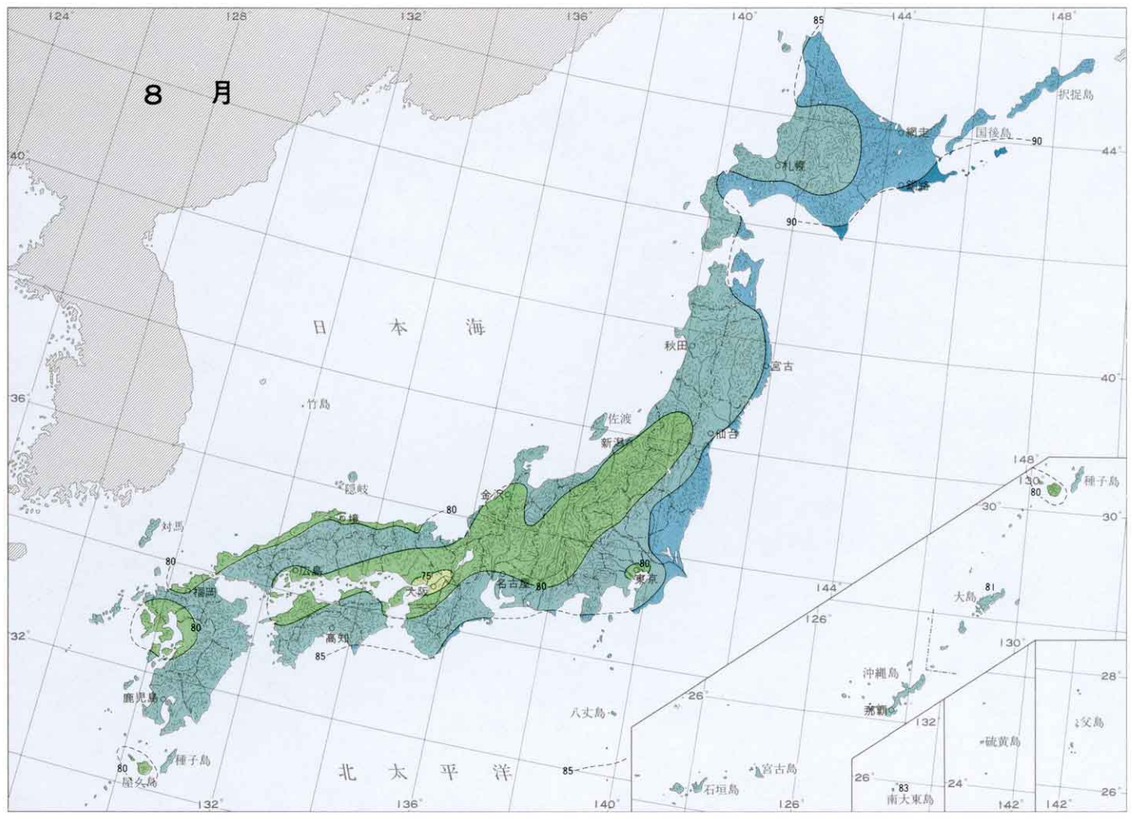

年
日本海
北太平洋

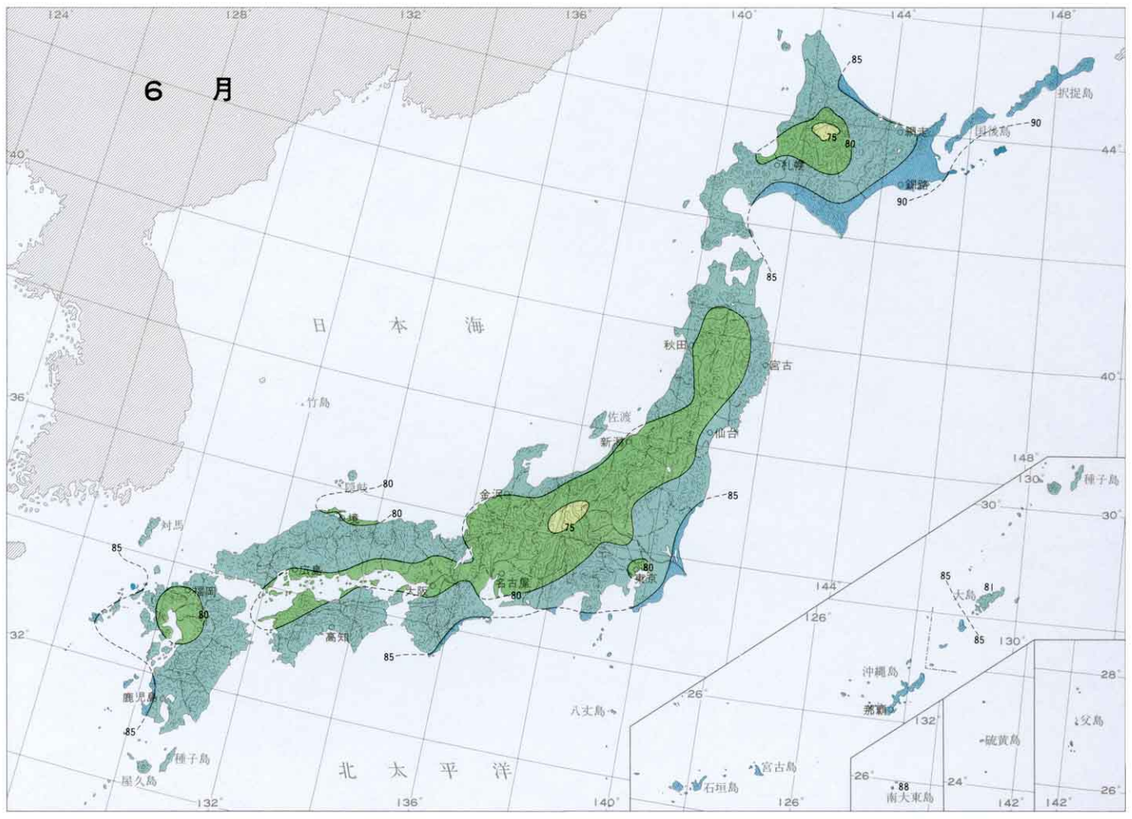

12 月
日本海
北太平洋


2 月
日本海
北太平洋


10 月
日本海
北太平洋


4 月
日本海
北太平洋


8 月
日本海
北太平洋


6 月
日本海
北太平洋